琉球大学学術リポジトリ

［巻頭言］地域における農業研究

メタデータ	言語:
	出版者: 沖縄農業研究会
	公開日: 2009-01-29
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 喜名, 景秀, Kina, Keisyu
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015667

地域における農業研究

喜　名　景　秀

Keisyu Kina: Agricultural research in the region.

沖縄農業は，甘味資源およびバイオマス資源として利用価値の高いサトウキビやパイナップル等のトロピカルフルーツの産地として，また気象条件を生かした冬春期園芸作物の供給産地として，個性豊かな亜熱帯農業を展開し，国内亜熱帯地域としての産地の役割を担うとともに，本県経済の発展に寄与してきた．しかし近年，マンゴーなど一部を除いて主要な作物の生産は横這いないし減少傾向が続いており，その要因として担い手の高齢化，後継者不足，国内外の産地間競争の激化，輸入農産物の増加，農産物価格の低迷などがあげられている．

一方，マイナーではあるが脚光を浴びている作物もあり，それらを特産物に仕立てて“村興し”“地域活性化”に乗り出した自治体もある．大宜味村のシークワーサー，読谷村の紅イモなどはその例であり，県外の大消費地への出荷を前提とした生産拡大ではないが着実な伸びを示している．収量が少ない，機械化に向かない，病害虫に弱い，加工に適さないなど，栽培や流通に問題があり，後回しにされてきた地域の作物にも徐々に光があてられるようになってきた．これらの作物については研究情報が少ないだけでなく，研究効率も良いとはいえないかもしれない．もともと問題が多いから後回しにされてきたわけであるが，輸入農産物の増加にともなって，消費者の食や健康についての関心が高まり，品質や安全性に加えて機能性への要求など，マイナーであった農作物の多様化，差別化，高付加価値化も強く求められるようになってきた．こうした動きに同調するように少量多品目に対応した流通システムも整備されつつあり，これからはそれぞれの地域の個性を活かし，他では追従できないような農産物の開発が必要になってくるのではないかと思う．

かっての農業は，土地の立地条件を熟知し，その土地の豊かな生物資源を徹底して活用することを基本として成立していた．土地が異なれば当然，作物や農業技術も農業の体系そのものも異なってくる．地域の農業は個性的であり，今後は全国共通で没個性の農業研究ではなく，それぞれの地域の立地と独自の生物資源を活かす新たな農業研究の必要性が増してくるのではないかと思う．

もちろん主要作物の品種開発や高品質・安定生産技術とそれを可能にする機械化や土壌肥料，病害虫防除等の技術開発もこれまでと同様に継続しなければならないが，沖縄農業の原風景，亜熱帯，島嶼の環境によって育まれた豊かな生物資源や農作物，農業技術を最先端の科学技術の目でもう一度見直すことも重要ではないかと思っている．

沖縄は立地上克服すべき不利な条件も多いが，逆にその立地を活かし，独自性を発揮することによって，新しい需要を喚起し，新たな価値を生むような地域農業を展開できる可能性を大きく秘めており，沖縄でしかできない独自の農業研究にも力を入れることは必要に思える．